

船舶事故調査報告書

令和8年3月25日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	転覆
発生日時	令和7年9月1日 11時48分頃
発生場所	神奈川県平塚市南方沖 大磯港西防波堤灯台から真方位168° 6.0海里付近 (概位 北緯35° 12.4′ 東経139° 20.8′)
事故の概要	プレジャーボート マジオルカは、南進中、転覆した。
事故調査の経過	令和7年9月18日、主管調査官（横浜事務所）を指名 原因関係者から意見聴取手続実施済
事実情報	
船種船名、総トン数	プレジャーボート マジオルカ、0.8トン
船舶番号、船舶所有者等	235-46251群馬、個人所有
乗組員等に関する情報	船長、一級小型
負傷者	なし
損傷	船外機に濡損
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 南、風力 4、視界 良好 海象：波高 約1m（船長の観測）、水温 約26℃ 平塚市には、9月1日04時13分に強風注意報が発表され、本事故当時も継続中であった。
事故の経過	<p>本船は、船長が1人で乗り組み、友人2人（以下「同乗者」という。）を乗せ、釣りの目的で神奈川県葉山町葉山港を出港し、平塚市南方沖において船首を北方に向けて漂泊を開始した。</p> <p>船長は、出港前、天気予報を見て強風注意報（平均風速12m/s以上）が発表されていることを知っていたが、出港時には風が弱く波も高くなかったため、午前中の間であれば釣りができると考えていた。</p> <p>船長は、同乗者と共に釣りを行っていたところ、本船が南風を船尾方から受けて圧流されたので、元の釣り場に移動しようと約4～5ノット（kn）の速力（対地速力、以下同じ。）で手動操舵によって南方からの波を船首方から受けるように本船を南進させた。</p> <p>本船は、南進中に3回連続して船首方から約1mの波を受けて甲板上に海水が滞留して水船状態となり、排水する間もなく、左舷側に傾斜して転覆した。（図1参照）</p>



図1 事故発生場所概略図

(国土地理院 Web サイトの地理院地図を加工して作成)

船長と同乗者2人は、転覆時に落水し、その後本船の船底に這い上がった。船長は、携帯電話で118番通報し、その後同乗者2人と共に来援した巡視艇に救助された。

本船は、巡視艇によって、神奈川県藤沢市所在のヨットハーバーにえい航された。

本船の海面から舷縁までの高さは、船首約0.6m、船尾約0.3mであった。

船長及び同乗者は、救命胴衣を着用していた。

分析

本船は、強風注意報が発表されている状況下、出港したことから、約4～5knの速力で航行中、船首方から連続して波の打ち込みを受けて浸水し、転覆したものと考えられる。

事故当時の波高は約1mであったが、本船の船首部の乾舷は0.6mであったことから、本船は波の打ち込みを受けやすい状況にあったものと考えられる。

船長は、天気予報を見て強風注意報が発表されていることを知っていたが、出港時には風が弱く波も高くなかったことから、午前中の間であれば釣りができると思って本船を出港させたものと考えられる。

原因

本事故は、本船が、強風注意報が発表されている状況下、出港したため、約4～5knの速力で航行中、船首方から連続して波の打ち込みを受けて浸水し、転覆したものと考えられる。

再発防止策

今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。

- ・ 乾舷の小さい小型船舶の船長は、自船の堪航性を考慮し、気象海象の悪化が予想される場合には、出港を控えること。